立教大学校友会報　http://www.rikkyo.ac.jp/koyu/

セントポール

ST.PAUL'S ALUMNI

22年ぶりの快挙！

戸村君、ドラフト一位指名される

本学野球部が創部100周年を迎えた2009年、10月29日（木）のプロ野球ドラフト会議にて、本学野球部の戸村健次君（メディア社会学科4年次）が東北楽天ゴールデンイーグルスに一位指名されました。本学野球部から社会人野球を経由せずにプロ入りするのは9年ぶり、ドラフト一位指名を受けてのプロ入りは長嶋一茂氏以来、実に22年ぶりの快挙です。

▲力投する戸村君

Q なぜ立教の野球部を選んだのですか？

野球好きの父が六大学の出身なので六大学で野球をやりたいと思い、高校受験で立教新座を選びました。立大野球部は環境がよかったので、そのまま入部することに迷いはありませんでした。

Q 大学野球の思い出を教えてください。

下級生の時は投げても結果が出ず、自信が持てなくて監督から毎日怒られてばかりで辛かったです。でも今は一生懸命面倒を見てもらったおかげで成長できたと、とても感謝しています。3年生の秋には早稲田に1対0で負けはしましたが、あの試合で自分の投球に自信が持てるようになりました。4年生ではちょうど野球部100周年でしたし、是が非でも優勝したいと夏は吐くほど走り込んで猛練習したのですが、残念ながら秋も7勝7敗でした。ただ10シーズンぶりに慶応から勝ち点を取れたことは4年間で一番嬉しかった思い出です。

Q キャンパスライフの思い出は？

4年間野球漬けでした。自分は制服なので、学食に行っても私服の人の中に溶け込めず、野球部だけで集まっていました。旅行とかうらやましいと思ったけれど、一つのことに打ち込んだ4年間も学生生活の一つの形だと思っています。

Q ドラフト当日の様子を聞かせてください。

前日はドキドキしていましたが、当日はそれ程緊張もせずに寮でドラフト会議の中継を観ていました。テレビ中継中に決まればいいとは思っていましたが、まさか一位指名されるとは思ってもいませんでした。

Q プロ入りはいつ頃から考え始めたのですか？

初めは全く考えていませんでしたが、3年生の頃から社会人でやろうかなと思っていました。4年生の秋になってからようやくプロに行けるかなあと思うようになりました。

Q 楽天球団の印象は？

意中の球団でした。岩隈投手に憧れていたので指名されてうれしかったです。仙台には一度も行ったことがないのですが、食べ物がおいしいし、ファンがとても温かいと聞いているので、早く行きたいです。

Q 契約金の使い道は？

まだ若いので、親に管理してもらおうと思っています。

Q 対戦したい選手は？

六大学で同期の選手と対戦するのは楽しみですが、一番対戦したいのは法政出身でオリックスの大引選手です。大引選手は自分が1年生のときの4年生で、フィールディングもバッティングも走塁もすべてがかっこよくて憧れていました。

Q 将来の夢は？

早く先発投手として1年間ローテーションに入りたいと思っています。大リーグは考えていません。

Q 最後に一言お願いします。

立大野球部は優勝までと一歩のところまできているので、これからも頑張ってほしいと思います。自分は、早く一軍にあがって、みんなの前で投げられるようになりたいと思っていますので、応援よろしくお願いします。

▲「早く1軍に」と抱負を語る

プロフィール
戸村健次（とむらけんじ）
1987年10月20日生まれ、立教新座高校出身。社会学部メディア社会学科4年。185cm、78kg。足のサイズ28.5cm。投手、右投右打。

インタビュー後記

インタビュー終了後にその大きな手と長い指を見せていただき感激しました。そして座っていたときにはわからなかった背の高さにもびっくり。これからテレビの画面で会えるのが楽しみです。

町田（55法）

最終学年で優勝できなかったことをとても悔しがっていたのが印象的でした。大人しく控えめな選手だと思っていましたが、きっとこの悔しさをばねにプロの世界で大活躍してくれることでしょう。皆さんも楽天の戸村投手を是非ご声援ください

松野（59観）

現役プロ野球選手として活躍する校友
広池浩司（H8社・広島東洋）
早川大輔（H10営・横浜）
多田野数人（H15観・北海道日本ハム）
小林太志（H18コ・横浜）
※カッコ内は卒年学科・球団名

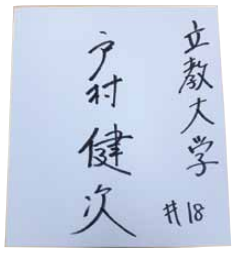
出場試合成績

シーズン	試	勝	敗	分	打者	投球回数	安	本	四	振	失	責	防御率
06春	2	0	0	0	6	2 2/3	6	0	3	5	6	6	20.25
06秋	1	0	0	0	17	2	2	0	1	2	1	0	0.00
07春	8	1	2	0	8	22	22	0	10	15	11	8	3.27
07秋	2	0	0	0	95	3	4	0	3	4	0	3	9.00
08春	5	0	1	0	15	12 1/3	9	0	9	10	7	6	4.38
08秋	7	2	3	0	56	36 1/3	29	0	16	31	14	9	2.23
09春	9	3	2	0	148	45 1/3	45	1	29	28	19	15	2.98
09秋	11	4	6	0	314	74 2/3	67	0	28	46	26	23	2.77
通算	45	10	14	0	864	198 1/3	184	1	99	141	84	70	3.17

▶会報委員町田、松野と

会報「セントポール」読者の皆様にプレゼント！

戸村君のサイン入り色紙を5名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、「氏名」「卒年学科」「住所（プレゼント送付先）」「電話番号」「会報セントポールの感想、ご意見」をご記入の上、官製ハガキにてお申し込みください。



【応募先】
〒171-8501
東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学校友会事務局 会報セントポール読者プレゼント係 まで
※締切　2月末日必着
※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。
※当選者の発表は発送を持ってかえさせていただきます。

■発行所
立教大学校友会
〒171-8501
豊島区西池袋3-34-1
■電　話 03(3985)2634
■発行人 江草　忠敬
■編集人 石﨑　孟

主なニュース

2面▼校友会長インタビュー
3面▼第47回ホームカミングデー開催報告
8面▼「地域立教会を訪ねて」第17回 新潟立教会

時計台

長引く不況に新卒学生の就職内定の厳しさを折に触れ耳にする季節になった。そんな折、立教の学生からOG訪問の依頼があった。04年に立教を卒業した私も、求人倍率の底打ちといわれた就職氷河期の入社。同級生たちが1人2人と内定を獲得する中、暑い最中まで着慣れないリクルートスーツに身を包み焦る気持ちを抑えながら都心を歩き回った日が懐かしい。それから6年、無我夢中に仕事を覚える中で、企業の採用担当者のインタビューを目にすることがあった。求める人材像の最後に、彼自身の個人的な基準として「愛校心のある学生を採用したい。」とコメントされていた。曰く、愛校心のある学生は愛社精神をもった企業人になってくれるだろう、と。個人主義、合理化、厳しく問われる成果…、企業や社会から文化や愛着が薄れゆく中で、愛社精神など前時代の産物でしかないといわれるかもしれない。また、現役学生にとっては愛校心という言葉自体がピンとくるものではないかもしれない。ただこれだけは言えることは、愛校心も愛社精神も「今いるこの場所への肯定感」が欠かせないということだ。第一志望が叶わなかったという経験を大学受験ではじめて経験した学生も多いだろう。（かく言う私もその1人である。）そんなスタートの中で友人や先生との出会い、授業や部活、サークルで自分のモノの見方が揺さぶられるような経験を通して、徐々に「立教」にいる時間や自分を肯定できるようになっていったように思う。立教風にいえば、神様に与えられたこの場所に愛をもって生きること、それこそがこの先につながっていく。就活学生さんの幸運を祈りつつ、学生時代に思いを馳せた新春の午後であった。

（西村紗智 H16教）